

2025年度（令和7年度）
卒業5年後
アンケート報告書

調査概要

1) 調査の目的

本学のディプロマ・ポリシーに基づき、本学で培った力が卒業後の社会・職業生活においてどのように発揮されているかを把握し、教育内容および学生支援体制の改善に活かすことを目的として実施した。

2) 調査方法

卒業後5年を経過した卒業生を対象に、郵送およびメールにより調査依頼を行い、Microsoft Formsを用いたオンライン形式によりアンケートを実施した。

3) 調査時期

2026年2月4日(水)～3月28日(土)

4) 調査対象者

本学を2020年度(2021年3月)に卒業した学部学生および大学院生

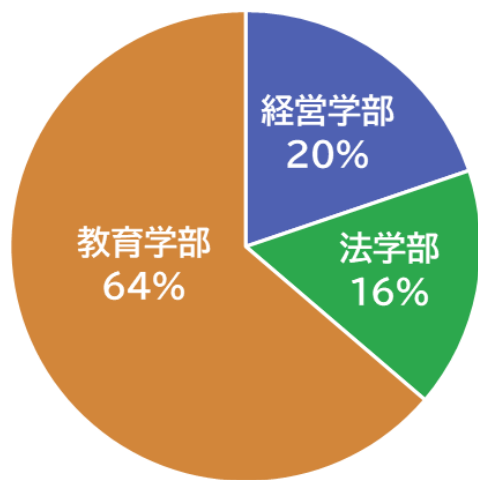
5) 回答数・回答率

学部（専攻）	調査 対象者数(人)	回答件数(人)	回答率
全体	1207	91	8%
経営学部	434	18	4%
法学部	293	15	5%
教育学部	480	58	12%
（児童教育専攻）	253	25	10%
（スポーツ健康専攻）	116	17	15%
（英語教育専攻）	56	12	21%
（心理学専攻）	55	4	7%

6) 回答者属性

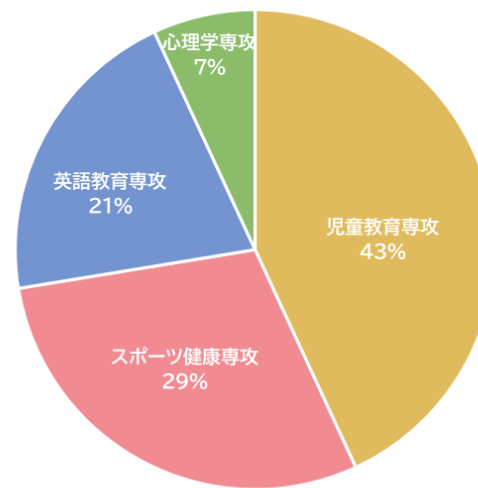
学部構成

n=91



教育学部専攻別内訳

n=58



7) 集計データについて

各設問の割合 (%) は当該設問の回答者数 (n) を母数として算出している。

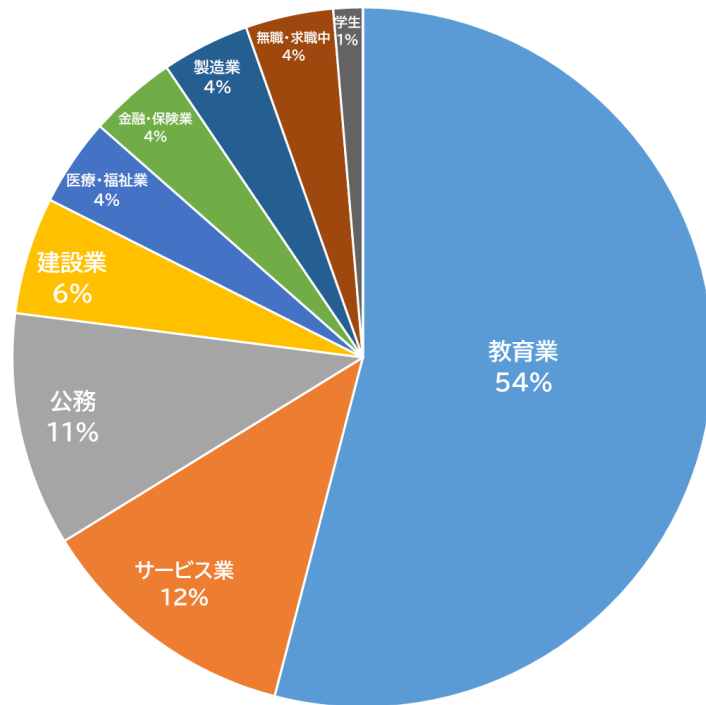
割合は小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がある。

基本情報（現在の状況）

過年度卒業生アンケートについては、回答率が限定的であることから、結果の解釈には留意が必要であることを前提に結果の分析・考察を行う。回収された有効回答の属性は、経営学部（20%）、法学部（16%）、教育学部（64%）で構成されている。就業状況については、「正社員（53%）」および「公務員・教職員（35%）」が回答者の大半を占めており、正規雇用を中心とした安定した就業基盤が確認できる。また、勤務先の業種については、教育学部卒業生からの回答が多いことから「教育業（54%）」が過半数を占める一方で、「サービス業（12%）」や「公務（11%）」などにも広がっており、一定の多様性も認められる。

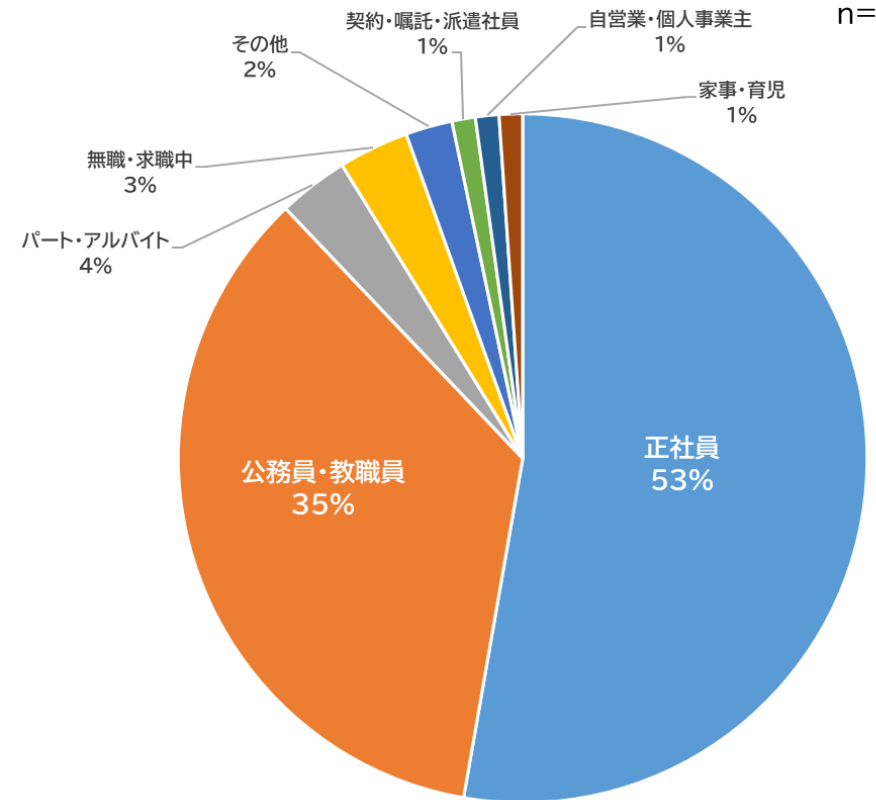
Q4.現在の勤務先の業種を教えてください。

n=91



Q5.現在の職業形態を教えてください。

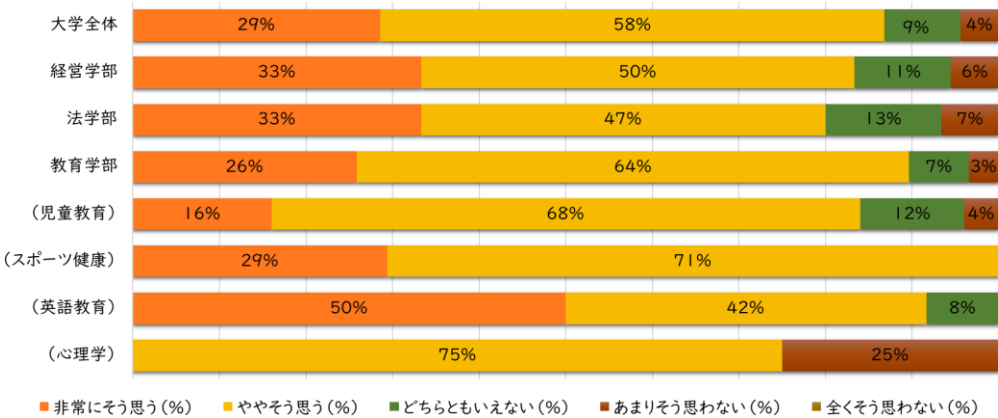
n=91



社会における学修成果の発揮 (DP①自律性・教養・柔軟な思考力の達成状況)

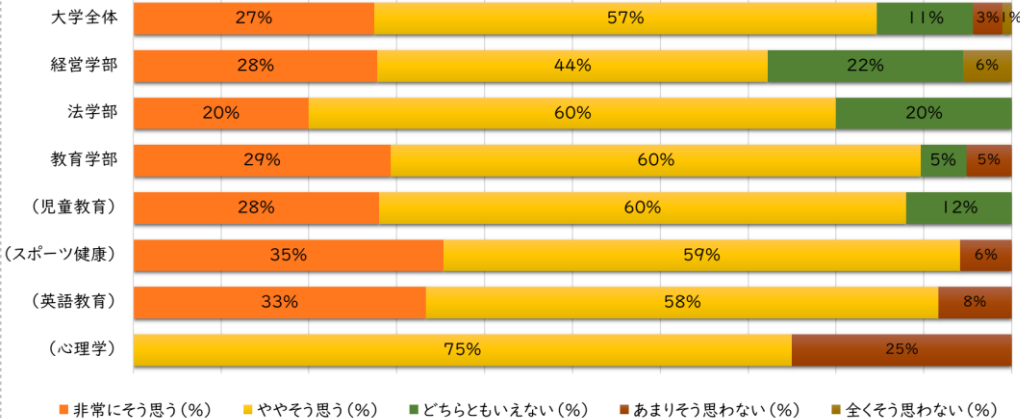
「自ら課題を発見し主体的に行動する力 (Q6)」および「教養や柔軟な思考力を活かして課題解決に取り組む力 (Q7)」のいずれにおいても、肯定的評価は80～90%程度と高い水準を示しており、基礎的能力の有用性は示されている。また、また、卒業時アンケートにおいても同様に高い評価が確認されており、これらの能力は在学中に育成された後、卒業後においても維持・活用されていると考えられる。

Q6. 自ら課題を発見し、主体的に行動している。



学部	非常にそう思う (%)	非常にそう思う (人)	ややそう思う (%)	ややそう思う (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまりそう思わない (%)	あまりそう思わない (人)	全くそう思わない (%)	全くそう思わない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	29%	26	58%	53	9%	8	4%	4	0%	0	100%	91
経営学部	33%	6	50%	9	11%	2	6%	1	0%	0	100%	18
法学部	33%	5	47%	7	13%	2	7%	1	0%	0	100%	15
教育学部	26%	15	64%	37	7%	4	3%	2	0%	0	100%	58
(児童教育)	16%	4	68%	17	12%	3	4%	1	0%	0	100%	25
(スポーツ健康)	29%	5	71%	12	0%	0	0%	0	0%	0	100%	17
(英語教育)	50%	6	42%	5	8%	1	0%	0	0%	0	100%	12
(心理学)	0%	0	75%	3	0%	0	25%	1	0%	0	100%	4

Q7. 教養や柔軟な思考力を活かして、課題の解決や意思決定に取り組んでいる。

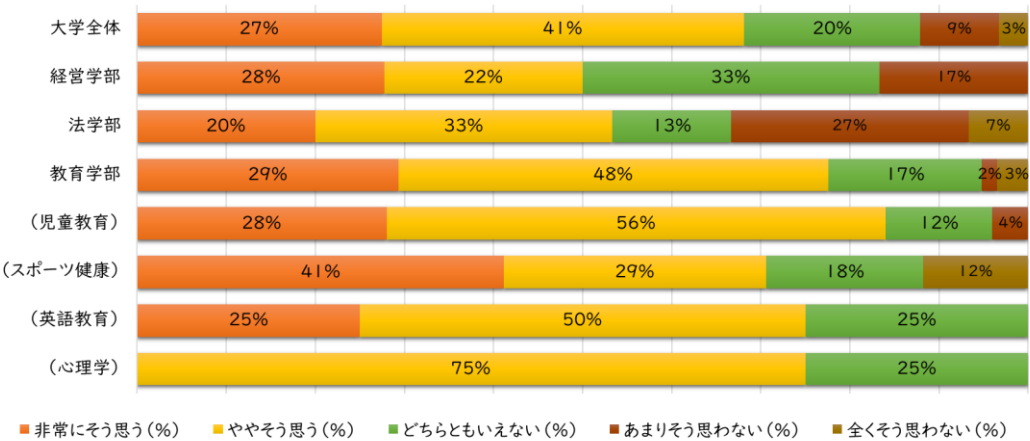


学部	非常にそう思う (%)	非常にそう思う (人)	ややそう思う (%)	ややそう思う (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまりそう思わない (%)	あまりそう思わない (人)	全くそう思わない (%)	全くそう思わない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	27%	25	57%	52	11%	10	3%	3	1%	1	100%	91
経営学部	28%	5	44%	8	22%	4	0%	0	6%	1	100%	18
法学部	20%	3	60%	9	20%	3	0%	0	0%	0	100%	15
教育学部	29%	17	60%	35	5%	3	5%	3	0%	0	100%	58
(児童教育)	28%	7	60%	15	12%	3	0%	0	0%	0	100%	25
(スポーツ健康)	35%	6	59%	10	0%	0	6%	1	0%	0	100%	17
(英語教育)	33%	4	58%	7	0%	0	8%	1	0%	0	100%	12
(心理学)	0%	0	75%	3	0%	0	25%	1	0%	0	100%	4

社会における学修成果の発揮（DP専門知識・技能）

「本学で学んだ専門分野の知識や技能を、業務や生活に活かしている（Q8）」においては、肯定的評価は60～70%程度と一定の水準を示しており、本学における専門的知識・技能は卒業後の社会・職業生活において概ね活用されていると評価でき、総じて、各学部とも基礎能力の有用性は示されている。一方、DP①に関する基礎的能力と比較すると、その活用状況はやや限定的であり、専門知を実務に応用する力や多様な職業環境においても活用可能な汎用性を高めることが全学共通の課題である。

Q8.本学で学んだ専門分野の知識や技能を、業務や生活に活かしている。

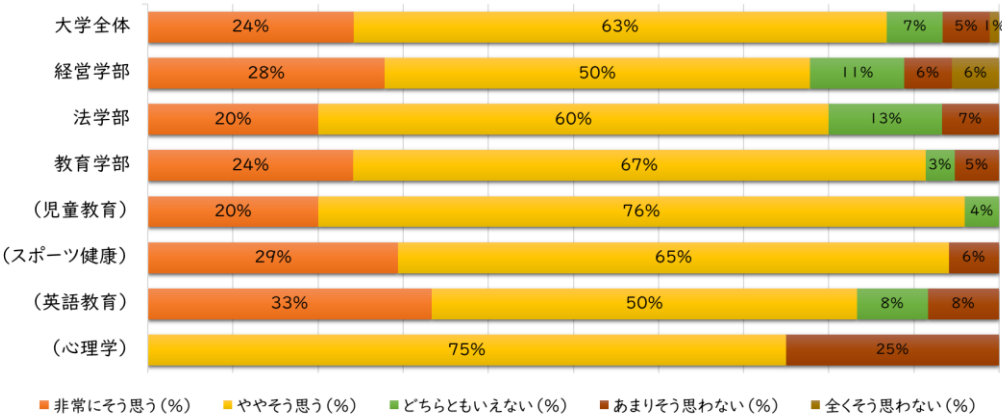


学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	27%	25	41%	37	20%	18	9%	8	3%	3	100%	91
経営学部	28%	5	22%	4	33%	6	17%	3	0%	0	100%	18
法学部	20%	3	33%	5	13%	2	27%	4	7%	1	100%	15
教育学部	29%	17	48%	28	17%	10	2%	1	3%	2	100%	58
(児童教育)	28%	7	56%	14	12%	3	4%	1	0%	0	100%	25
(スポーツ健康)	41%	7	29%	5	18%	3	0%	0	12%	2	100%	17
(英語教育)	25%	3	50%	6	25%	3	0%	0	0%	0	100%	12
(心理学)	0%	0	75%	3	25%	1	0%	0	0%	0	100%	4

社会における学修成果の発揮 (DP②情報活用力・発信力)

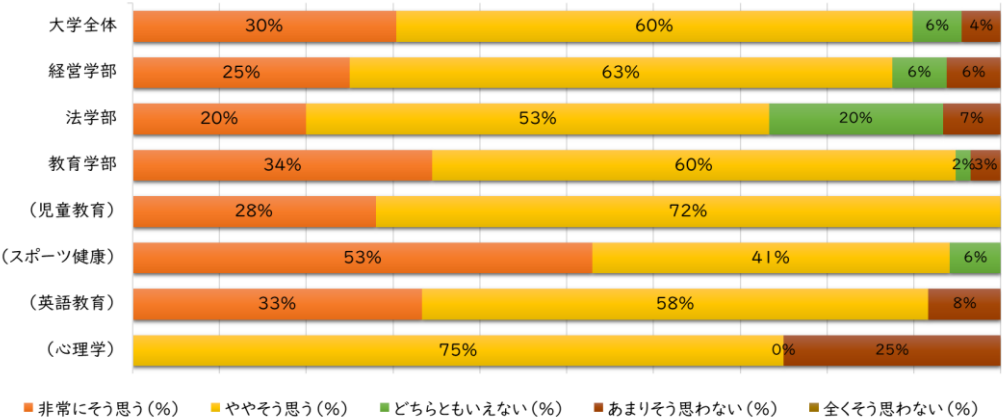
「必要な情報を自ら収集・整理し、課題解決に活用する力 (Q9)」および「自分の考えや意見を、相手や状況に応じて的確に伝え、共有する力 (Q10)」のいずれにおいても、肯定的評価は80%~90%と非常に高く、実践的なコミュニケーション能力が定着していると言える。特に、Q10において、卒業時アンケートと比較して肯定的評価が上昇しており、発信・共有といった対外的な能力については、卒業後の社会・職業生活の中で伸長している可能性がうかがえる。

Q9.必要な情報を自ら収集・整理し、課題解決に活用できていると思いますか。



学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	24%	22	63%	57	7%	6	5%	5	1%	1	100%	91
経営学部	28%	5	50%	9	11%	2	6%	1	6%	1	100%	18
法学部	20%	3	60%	9	13%	2	7%	1	0%	0	100%	15
教育学部	24%	14	67%	39	3%	2	5%	3	0%	0	100%	58
(児童教育)	20%	5	76%	19	4%	1	0%	0	0%	0	100%	25
(スポーツ健康)	29%	5	65%	11	0%	0	6%	1	0%	0	100%	17
(英語教育)	33%	4	50%	6	8%	1	8%	1	0%	0	100%	12
(心理学)	0%	0	75%	3	0%	0	25%	1	0%	0	100%	4

Q10.自分の考えや意見を、相手や状況に応じて的確に伝え、共有している。

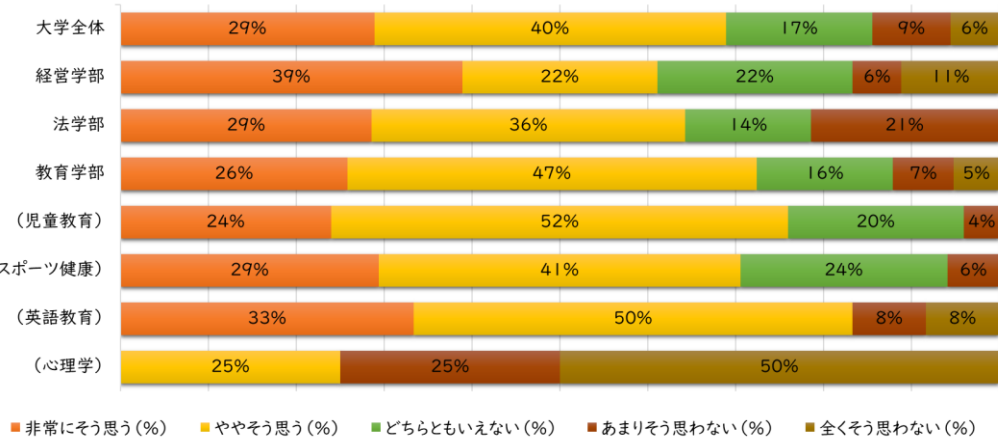


学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	30%	27	60%	53	6%	5	4%	4	0%	0	100%	89
経営学部	25%	4	63%	10	6%	1	6%	1	0%	0	100%	16
法学部	20%	3	53%	8	20%	3	7%	1	0%	0	100%	15
教育学部	34%	20	60%	35	2%	1	3%	2	0%	0	100%	58
(児童教育)	28%	7	72%	18	0%	0	0%	0	0%	0	100%	25
(スポーツ健康)	53%	9	41%	7	6%	1	0%	0	0%	0	100%	17
(英語教育)	33%	4	58%	7	0%	0	8%	1	0%	0	100%	12
(心理学)	0%	0	75%	3	0%	0	25%	1	0%	0	100%	4

社会における学修成果の発揮 (DP③社会・地域への貢献力)

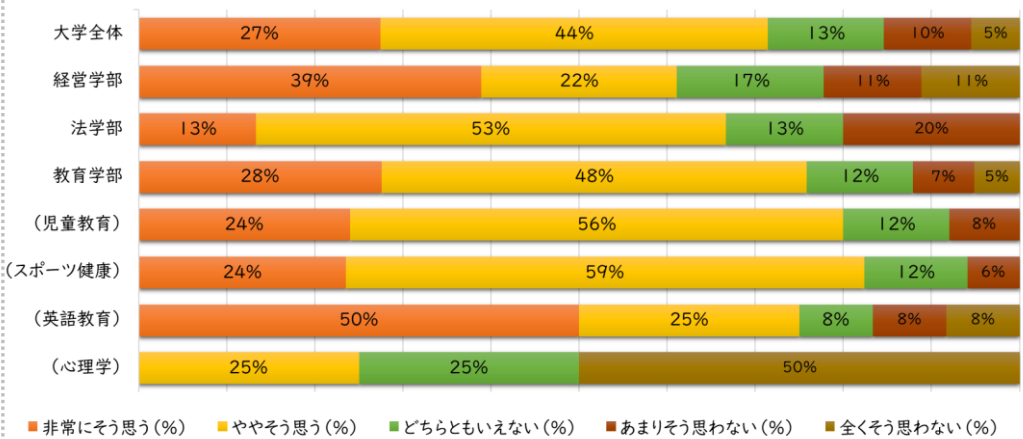
「社会や地域の発展に関わる意識を持ち、行動している(Q11)」および「本学での学びや経験が、社会や地域への貢献に活かされている(Q12)」のいずれにおいても、肯定的評価は60%~70%の水準にとどまっており、他のディプロマ・ポリシーと比較すると相対的に低い傾向が見られる。この結果から、貢献力は一定程度発揮されているものの、社会的価値を創出する視点を明確にする教育や地域と接点を持つ経験の提供が課題であると言える。

Q11.社会や地域の発展に関わる意識を持ち、行動している。



学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	29%	26	40%	36	17%	15	9%	8	6%	5	100%	90
経営学部	39%	7	22%	4	22%	4	6%	1	11%	2	100%	18
法学部	29%	4	36%	5	14%	2	21%	3	0%	0	100%	14
教育学部	26%	15	47%	27	16%	9	7%	4	5%	3	100%	58
(児童教育)	24%	6	52%	13	20%	5	4%	1	0%	0	100%	25
(スポーツ健康)	29%	5	41%	7	24%	4	6%	1	0%	0	100%	17
(英語教育)	33%	4	50%	6	0%	0	8%	1	8%	1	100%	12
(心理学)	0%	0	25%	1	0%	0	25%	1	50%	2	100%	4

Q12.本学での学びや経験が、社会や地域への貢献に活かされている。

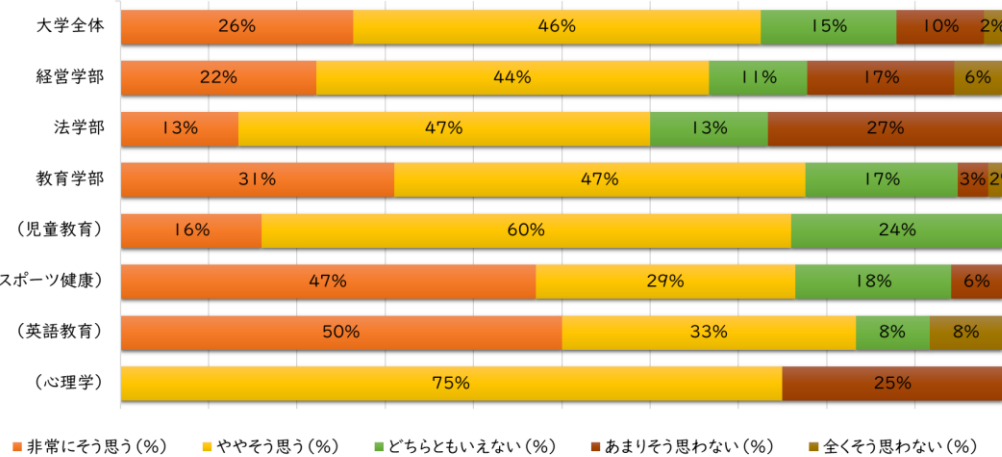


学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	27%	25	44%	40	13%	12	10%	9	5%	5	100%	91
経営学部	39%	7	22%	4	17%	3	11%	2	11%	2	100%	18
法学部	13%	2	53%	8	13%	2	20%	3	0%	0	100%	15
教育学部	28%	16	48%	28	12%	7	7%	4	5%	3	100%	58
(児童教育)	24%	6	56%	14	12%	3	8%	2	0%	0	100%	25
(スポーツ健康)	24%	4	59%	10	12%	2	6%	1	0%	0	100%	17
(英語教育)	50%	6	25%	3	8%	1	8%	1	8%	1	100%	12
(心理学)	0%	0	25%	1	25%	1	0%	0	50%	2	100%	4

社会における学修成果の発揮 (DP④)国際的視野と将来を展望する力)

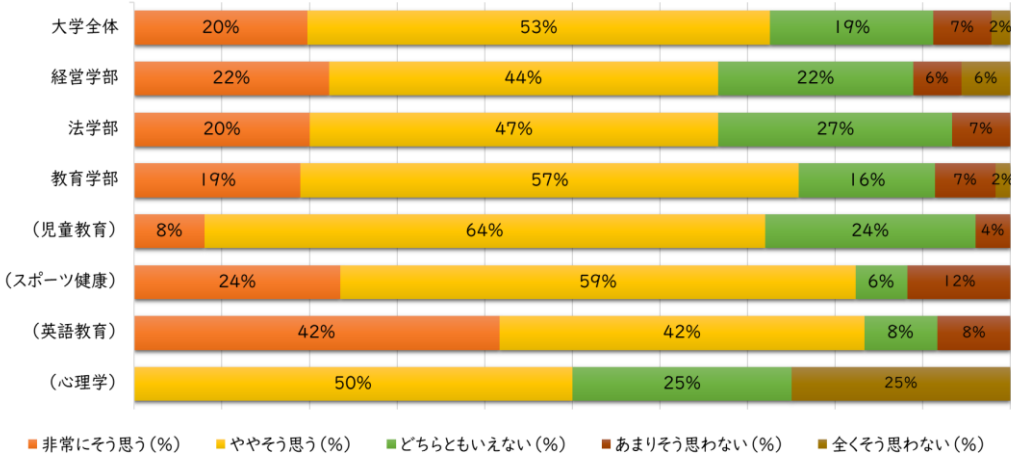
「異文化や多様な価値観を理解する姿勢が身についている (Q13)」および「広い視野でキャリアや将来を考え、行動している (Q14)」のいずれにおいても、肯定的評価は70%前後と一定の水準を示している。一方で、DP①に関する基礎的能力と比較すると相対的に低い水準にとどまっている。また、卒業時アンケートと比較しても大きな変化は見られず、これらの能力を身につけられるよう、全学的な仕組みづくりが必要である。

Q13.異文化や多様な価値観を理解する姿勢が身についていると思いますか。



学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数 (n)
大学全体	26%	24	46%	42	15%	14	10%	9	2%	2	100%	91
経営学部	22%	4	44%	8	11%	2	17%	3	6%	1	100%	18
法学部	13%	2	47%	7	13%	2	27%	4	0%	0	100%	15
教育学部	31%	18	47%	27	17%	10	3%	2	2%	1	100%	58
(児童教育)	16%	4	60%	15	24%	6	0%	0	0%	0	100%	25
(スポーツ健康)	47%	8	29%	5	18%	3	6%	1	0%	0	100%	17
(英語教育)	50%	6	33%	4	8%	1	0%	0	8%	1	100%	12
(心理学)	0%	0	75%	3	0%	0	25%	1	0%	0	100%	4

Q14.広い視野でキャリアや将来を考え、行動している。



学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数 (n)
大学全体	20%	18	53%	48	19%	17	7%	6	2%	2	100%	91
経営学部	22%	4	44%	8	22%	4	6%	1	6%	1	100%	18
法学部	20%	3	47%	7	27%	4	7%	1	0%	0	100%	15
教育学部	19%	11	57%	33	16%	9	7%	4	2%	1	100%	58
(児童教育)	8%	2	64%	16	24%	6	4%	1	0%	0	100%	25
(スポーツ健康)	24%	4	59%	10	6%	1	12%	2	0%	0	100%	17
(英語教育)	42%	5	42%	5	8%	1	8%	1	0%	0	100%	12
(心理学)	0%	0	50%	2	25%	1	0%	0	25%	1	100%	4

本調査の回答者は、経営学部（20%）、法学部（16%）、教育学部（64%）で構成され、大半が正社員や公務員・教職員といった正規雇用を中心とする安定した就業基盤を築いている。業種は教育業が過半数を占めるが、サービス業や公務など一定の多様性も認められる。

自律性・教養・柔軟な思考力（DP①）に関しては、肯定的評価が80～90%程度と高い水準を示しており、基礎的能力の有用性は示されている。また、また、卒業時アンケートにおいても同様に高い評価が確認されており、これらの能力は在学中に育成された後、卒業後においても維持・活用されていると考えられる。しかし、専門知識の活用に関しては60～70%にとどまっており、職種や業務との適合性に依存する側面が見られる。

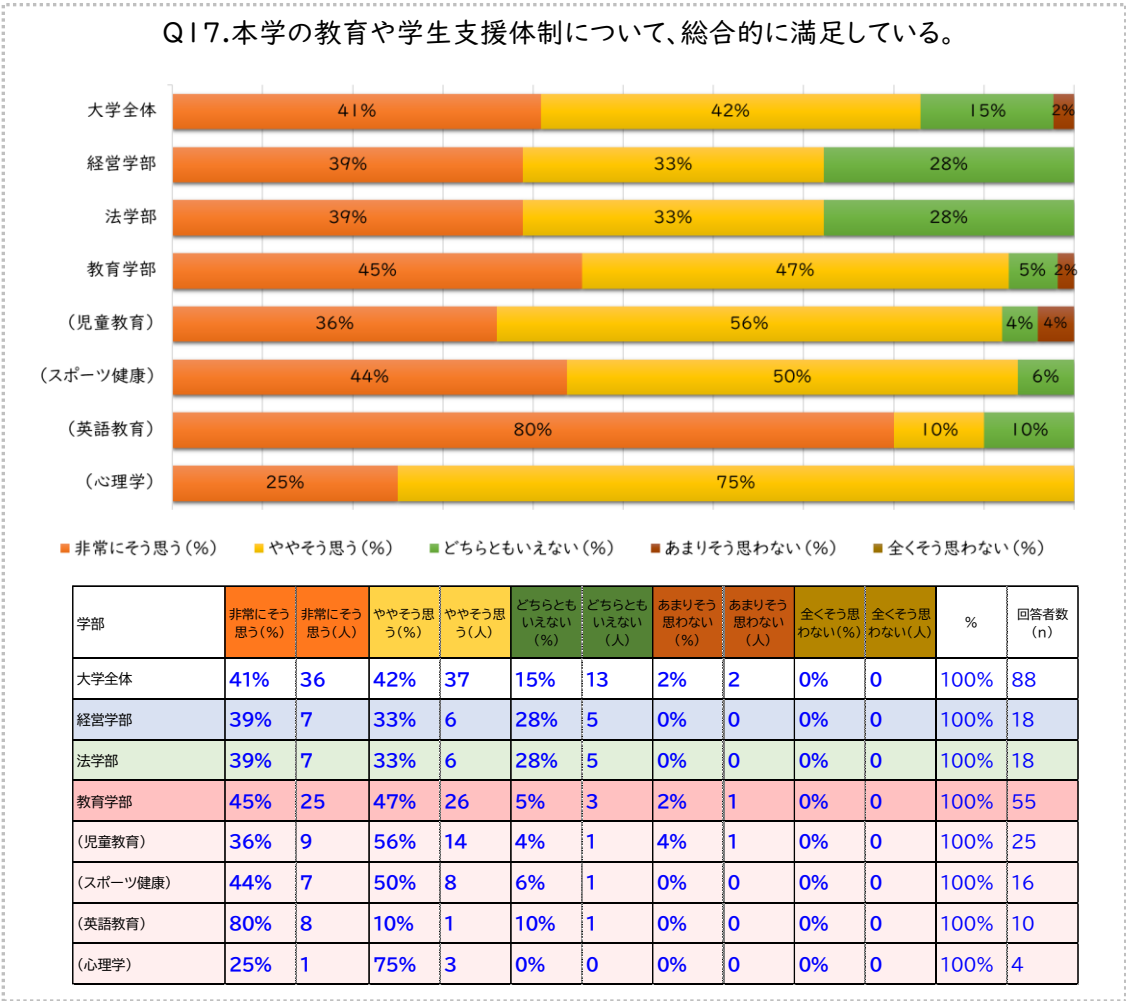
情報活用力・発信力（DP②）に関しても、肯定的評価は80%～90%と非常に高く、実践的なコミュニケーション能力が定着していると言える。特に、Q10において、卒業時アンケートに比べて肯定的評価が上昇していることから、卒業後の社会・職業生活の中で伸長している可能性が示唆された。

社会・地域への貢献（DP③）および国際的視野（DP④）については、肯定的評価は60%～70%の水準にとどまっており、DP①およびDP②と比較すると低い水準にとどまっている。地域貢献および国際的視野に関する意識は一定程度形成されているものの、行動や実践への転換には至っていない傾向が見られる。

これらの結果から、本学で学んだ基礎的能力や実践的コミュニケーション能力が、卒業後の社会で活躍する基盤として十分に機能していることが示唆された一方、社会・地域貢献や国際性といった現代的課題への転用にはまだ不十分な状況であることが課題として示された。

教育・学生支援に対する満足度（総合評価）

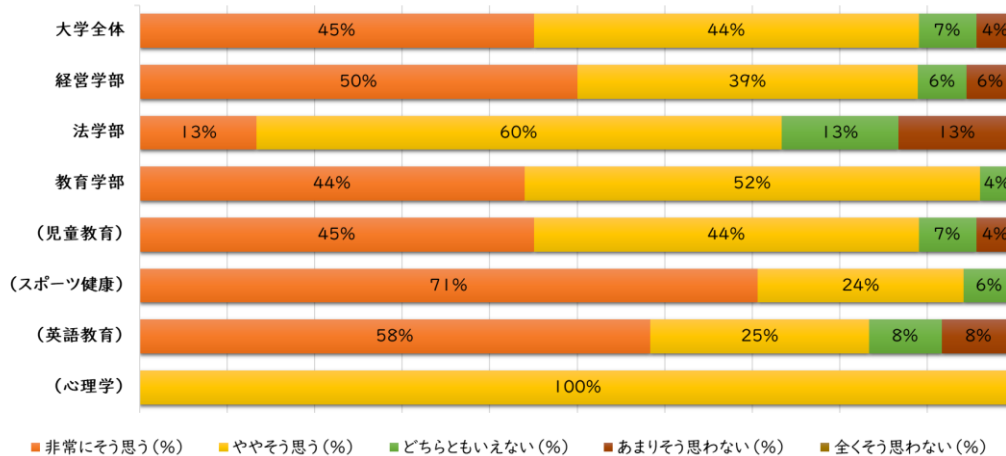
本学の教育や学生支援体制に対する満足度について、肯定的意見が大学全体として80%以上、特に教育学部は専攻・コースを問わず90%以上と高く維持されており、卒業後においても一定の評価がなされているといえる。一方で、学部間での差異は、均質な満足度を提供する観点においては課題であり、各学部の特性に応じた支援の強化が必要である。



教育成果の持続（卒業後の有用性）

「本学での学びや経験は、現在の仕事や生活に役立っている（Q16）」においては、肯定的評価が約90%と非常に高い水準を示しており、本学における教育成果は卒業後においても継続的に活用されていると評価できる。また、記述回答（Q19）からも同様の傾向が読み取れ、全体として、基礎的能力の有用性は持続しているといえる。

Q16. 本学での学びや経験は、現在の仕事や生活に役立っている。



学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	45%	41	44%	40	7%	6	4%	4	0%	0	100%	91
経営学部	50%	9	39%	7	6%	1	6%	1	0%	0	100%	18
法学部	13%	2	60%	9	13%	2	13%	2	0%	0	100%	15
教育学部	44%	11	52%	13	4%	1	0%	0	0%	0	100%	25
(児童教育)	45%	41	44%	40	7%	6	4%	4	0%	0	100%	91
(スポーツ健康)	71%	12	24%	4	6%	1	0%	0	0%	0	100%	17
(英語教育)	58%	7	25%	3	8%	1	8%	1	0%	0	100%	12
(心理学)	0%	0	100%	4	0%	0	0%	0	0%	0	100%	4

Q19. 本学での学びや経験が、現在の仕事にどのように活かされているか、具体的に教えてください。

【コミュニケーション力・協働力が活かされている】

- ・ゼミやサークルでの経験が、職場での人間関係づくりや協働に役立っている。
- ・相手に応じて伝え、寄り添って話を聞く姿勢が、接客や相談業務に活かされている。

【専門知識・実践力】

- ・法律、経営、教育、スポーツ等の専門知識が、それぞれの業務に活かされている。
- ・模擬授業や教育実習等の経験が、授業づくりや児童・生徒への指導に役立っている。

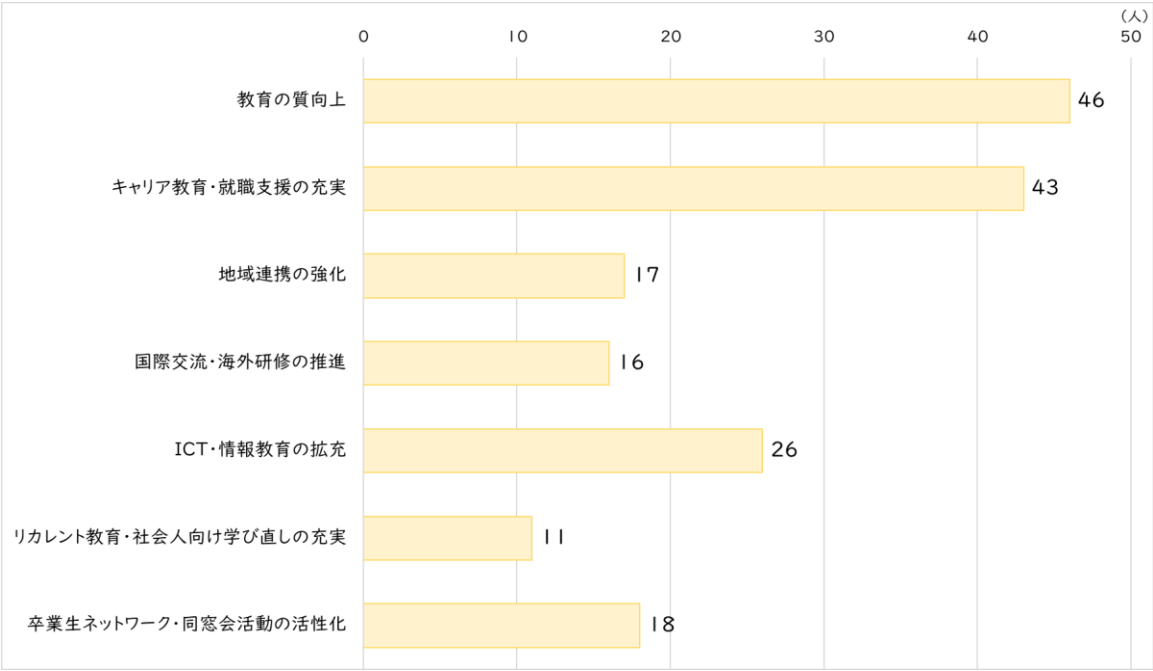
【課題解決力・幅広い視野】

- ・ゼミや卒業研究で培った思考力が、業務上の課題解決に役立っている。
- ・異文化理解や幅広い学びが、多様な価値観を理解し、柔軟に考えることにつながっている。

本学に期待する取り組み（教育改善要望）

本学に期待する取り組みとして、「教育の質向上」および「キャリア教育や就職支援の充実」が上位に挙げられており、DP③やDP④の分析結果とも共通する傾向である。さらに、ICTや情報教育の充実など、現代の諸課題への対応も求められている。これらを踏まえ、今後は、教育内容の充実や高度化に加え、その内容が社会と直結する実践的なものとなることも必要であるといえる。

Q18. 今後、本学に期待する取り組みを教えてください。（複数選択可）



項目	回答件数	(%)
教育の質向上	46	26%
キャリア教育・就職支援の充実	43	24%
地域連携の強化	17	10%
国際交流・海外研修の推進	16	9%
ICT・情報教育の拡充	26	15%
リカレント教育・社会人向け学び直しの充実	11	6%
卒業生ネットワーク・同窓会活動の活性化	18	10%
計	177	100%

本学での学びや経験が、現在の仕事や生活にどのように活かされているかについては、コミュニケーション力や指導力、専門的知識の活用に関する記述が多く見られ、在学中に培った能力が現在の業務や生活において具体的に活用されている状況が確認される。

Q19. 本学での学びや経験が、現在の仕事や生活にどのように活かされているか、具体的に教えてください。

(資料P.12に同じ)

【コミュニケーション力・協働力が活かされている】

- ・ゼミやサークルでの経験が、職場での人間関係づくりや協働に役立っている。
- ・相手に応じて伝え、寄り添って話を聞く姿勢が、接客や相談業務に活かされている。

【専門知識・実践力】

- ・法律、経営、教育、スポーツ等の専門知識が、それぞれの業務に活かされている。
- ・模擬授業や教育実習等の経験が、授業づくりや児童・生徒への指導に役立っている。

【課題解決力・幅広い視野】

- ・ゼミや卒業研究で培った思考力が、業務上の課題解決に役立っている。
- ・異文化理解や幅広い学びが、多様な価値観を理解し、柔軟に考えることにつながっている。

教育や学生支援に関する自由記述においては、授業内容や教育方法に関する意見に加え、キャリア支援や実践的な学びの充実、そして学び直しの機会を求める意見も見られる。総じて、実務やキャリアに直結する実践的な教育へのニーズが高く、学びと社会との接続に対する関心の高さがうかがえる。

Q20. 本学の教育や学生支援について、今後に向けたご意見・ご提案があればお聞かせください

【キャリア・教職支援を継続・充実してほしい】

- ・就職活動や教員採用試験に向けた丁寧な支援を、今後も継続してほしい。
- ・卒業後も相談や学び直しができる機会を設けてほしい。

【実践的・専門的な教育を充実してほしい】

- ・コミュニケーション力やプレゼンテーション力を実践的に学ぶ機会を増やしてほしい。
- ・ICT活用、生徒指導、保護者対応など、実務に直結する専門的な内容を充実してほしい。

【多様な学びと学修環境を充実してほしい】

- ・学部を越えて学生が学び合うことのできる授業やゼミを設けてほしい。

まとめと今後の課題

（まとめ）

3学部ともにディプロマ・ポリシー（DP）に掲げられた自律性、思考力、情報活用力といった基礎的能力は、卒業後5年を経過した社会・職業生活においても継続的に活用されており、教育の長期的かつ基盤的な成果として評価できる。教育・学生支援に対する総合的満足度や教育成果の持続性（卒業後の有用性）も全学的に高い水準を維持しており、在学中の経験が長期にわたり価値を持ち続けていることが証明されている。自由記述からは、講義内容そのものだけでなく、ゼミ活動、対人関係、多様な学修経験を通じて培われた汎用的な能力が現在の業務理解や問題解決に役立っている様子がうかがえる。卒業生は大学での学びを社会との出発点として肯定的に捉えており、これらは本学の教育基盤が有効に機能している証拠といえる。

（今後の課題）

今後の課題は、基礎力を実務で応用・発揮できるレベルへと高める教育の発展と、社会との接続の強化である。社会・地域への貢献は将来展望といった観点では、意識の形成は見られるものの、具体的な行動や実践への展開には課題が見られる。また、教育内容の充実やキャリア支援の強化、実践的な学びの充実を求める声が多く挙げられており、学修成果を社会における行動や実践へと結びつける取組の必要性が示唆される。これらを踏まえ、教育の質を維持・向上させつつも、その学修成果を実社会における実践へと接続する教育設計および支援体制の強化が重要な課題であるといえる。

なお、アンケートの回収率が低いため、いかにして回収率を上昇させるかも大きな課題である。